



絵 天童ひまわり園
荒木さやか
田中 愛
題字 守谷 俊雄

一般社団法人
山形県手をつなぐ育成会

編集・発行 〒990-0021 山形市小白川町二丁目3-31 山形県総合社会福祉センター内
TEL (023)623-6572 FAX (023)623-6571 E-mail : y-ikuseikai@coda.ocn.ne.jp 発行責任者 守谷 俊雄
ブログ URL <http://blog.goo.ne.jp/y-ikuseikai>

「普通に暮らす環境づくり」
私たち「育成会」の目標とする社会は、しよがいのある人たちが「普通に暮らす」ための環境であり、条件です。これらの様々な課題に立ち向かうことが、私たち育成会の活動であります。
私たち育成会は、これらの活動を通して、しよがいのある人たちとその家族が安心して暮らせることを願うと共に、すべての人がともに支え合う社会「共生社会」の実現を目指しています。



理事長
守谷 俊雄

「社会福祉法人」から
「一般社団法人」になって
II 育成会の課題「普通に暮らす」ための環境づくり II

今年、強い冬の気圧配置と寒波の影響で県内各地域豪雪となり会員の皆様、交通機関の乱れや、家屋の雪対策に大変なご苦労があったことと拝察いたします。
ようやく、春の気配が見え始め活力がみなぎる季節になってまいりました。
さて、当育成会は昨年四月より一般社団法人山形県手をつなぐ育成会として第一歩を踏み出し早一年になりました。

福祉サービスの整備

例えば知的しよがいのある人たちの地域での暮らしを支える環境や条件として次のようなことが考えられます。

まずは、「所得保障の確立」と、「各種サービス基盤の整備」「相談支援体制の整備」が重要です。

同時に様々な福祉サービスを担う「人材の育成と確保」が必要となります。

さらに地域生活や社会参加の上で、虐待防止法や差別禁止法の制定を含む「権利擁護システムの整備」が挙げられます。

障害者自立支援法改正案が可決成立

また、昨年十二月三日の参議院本会議において障害者自立支援法改正案が可決成立しました。特に今回は、様々な困難の中、全日本育成会と各地の育成会の同法案成立に向けた積極的な要望活動と意志によって成立したものです。

それを受けて「住民へのしよがいに對する理解促進と啓発」は着実に推進していくことが求められています。

会員自ら実行する

それには親・保護者の役割を認識し、意識の改革と、施設依存型から地域中心型へシフトすることです。

それにより、育成会の活性化を図り、若い会員が活動できる組織へ改革しなければなりません。育成会が、会員に何をしてくれるかではなく、会員一人ひとりが育成会のために何ができるかを考え実行することです。

台筆

■ 第22回山形県知的障がい者
レクリエーション大会
■ 9月29日開催
山形県総合運動公園サブグラウンドで

秋空の下 カ出しきって汗じた大会



恒例の第二十二回山形県知的障がい者レクリエーション大会を、九月二十九日山形県総合運動公園（天童市）で開催しました。

四十団体千四百人の参加

晴天とはいえない天候でしたが、かえって暑くもなく、寒くもない運動日和に恵まれました。途中ばらつく雨模様で少々心配した面もありました。でも、おしめり程度で、運動する上ではかえっていいくらいな感じでした。

四十団体千四百人の参加者といへんにぎやかな大会になりました。

本大会は友愛スポーツ大会から数えると、二十九回目。知的障がい者のスポーツ大会として県内最大のイベントとして定着してきました。徒競争、風船割り、玉入れ、パン食い競争、リレー、綱引きと、六種目で競い合いました。



応援賞

「いぶしの家」(白鷹町)
「のぞみの家」(山形市)

参加種目を終え、表彰された選手たちが首にメダルを下げ、その表情



は、皆さん晴れ晴れして、誇らしげ。とてもそれぞれの顔が印象的でした。また、団体毎の応援合戦も趣向を凝らしたものでした。見事、応援賞に輝いたのは、「いぶしの家」(白鷹町)、「のぞみの家」(山形市)の二団体でした。応援賞として二つの団体には賞状と盾が贈られました。

この応援賞の審査基準は、元氣、チームワーク、アイデアと三つの観点で行われました。いずれの団体も甲乙つけがたかったのですが、その中でも特に表彰された二つの団体は、特徴あるすぐれた応援ぶりが評価されました。

安全対策にも力を入れた

今回は、運営上、安全対策にも力を入れました。

山形県健康福祉部障がい福祉課、山形県身体障害者福祉協会の職員の方々にも、計画の段階よりアドバイザーを得て準備しました。さらに当日は、こうした職員の他に、一般ボランティアの方々合わせて百人以上のご協力で、一つの事故やけがもなく大会運営を進行することができました。



「障害認識プロジェクト」を開催

研修テーマ 親とこゝろ『育つ』と『育らる』
あなたのお立ち位置見直してみませんか？



ワークショップ
in
新養

すぐに打ち
解けあつて

十二月十七日、山形県立新庄養護学校PTA文化部主催で行われた「障害認識プロジェクト」親として『育つ』ということ、あなたの立ち位置見直おしてみませんか？

か？に二十一人の参加者があり大盛況でした。最初はワークの説明。隣の人になりきってその人を紹介する「他己紹介」で会場の雰囲気もなごやかに。学習プログラムを見た後の話し合いのころには、何故か初対面の人も話がはずみます。一番盛り上がったのは「回転木馬のワーク」これは自分のプチ自慢や長所をみんなの前でテンポよく発表し、それを無条件でみんなに褒めてもらうものです。この、みんなに褒めてもらう体験というのは、日常的にはあまりないことですが、それが自己肯定感につながり、気持ちに余裕も生まれます。皆さんの大きな歓声が外まで聞こえていたそうで、どんな研修をやっていたの？と寄宿舎の先生から聞かれたほどです。分かち合いと呼ばれる感想発表でも、色々な気づきがあり、充実した時間を過ごせたとの感想がありました。

ワークショップ
in
新養

おばあちゃんも参加

また、参加者の中には母親が都合で参加できないからと、親に代わって、おばあちゃんの参加もありました。そのおばあちゃんもこの研修にとても感激して、今度は是非でも母親に参加させたいと話してくれました。

その後の茶話会でも研修の話題になり、こんなに楽しい研修会に参加したのは初めてだ。また別のプログラムもやってみたいと何人もの方に声をかけていただきました。

ワークショップ
in
村特

自分を見つめ
なおす研修会

ワークショップin新養に引き続き、十二月二十二日には、山形県立村山特別支援学校楯岡校(村山市)でも、「障害認識プロジェクト」を開催することができました。高等部保護者会の主催で、参加者十四人により実施しました。

最初は中山一昭PTA会長の挨拶から固く始まったのですが、ワークショップし合いになったら、新庄養護学



校と同様みなさんついつい引き込まれて熱気あふれる研修会になりました。特に、今回の参加者は、ワークショップという形式の研修会に参加するのは初めてだという方がほとんどでした。最初の方はみなさんの緊張の度合いも強かったようですが、だんだんと雰囲気もなごやかになっていき、「とても有意義な研修会でした。もっと子どもを好きになりそうです」というような嬉しい感想もありました。

ワーク
in
村特
ジョ
シ

いや〜楽しかった

帰りに、一人の参加者より「育成会でこんなに楽しい研修があるなんて知らなかった」と声を掛けていただきました。育成会事務局でも、支部会長・事務担当者の研修会といった全県下の代表者が集まる会合において、「家族支援プロジェクト」の紹介は数回行ってあります。しかし、なかなかこうした参加型の新しい研修の楽しさ・重要性の理解が進んでないのが現状です。もちろん、従来どおり講義式の福祉制度に関する最新情報を得る研修会も今後継続していきます。ただ、これからは従来型の一方通行的な研修会だけでは、魅力を感じない若い会員が増えていきます。最新情報の入手はインターネットです。話を聴いて終わりでなく、積極的に参加する意義を感じられなくなっています。だからこそ、みんなが集まって参加者が相互に刺激しあい、仲間から学べるような参加型の研修会こそ望まれています。自分の発言が認められることで、元気をわけてもらえるような研修会のあり方を模索する必要があります。

ワーク
in
天童
ジョ
シ

会員以外の方も参加

二月二十二日には、天童市手をつなぐ育成会でも「障害認識プロジェクト」を開催しました。参加者は、やはり学齢期の子をもつ親御さんがほとんどでした。中には、ご自分のお子さんはお亡くなりになっていられるのに、今苦勞している若い親御さんの力になりたいと参加してくださった方もいらっしゃいました。

ワーク
in
天童
ジョ
シ

振り返り……涙

ワークでの話し合いでは、自分のこれまでを振り返り、いろいろな思い出と共に、自分を支えてくれた先輩や先生の言葉を思い出して、涙する方もありました。現在の悩みを親身になって聞いてくれる先輩お母さんに心を開き涙する方もいらっしゃいました。これまでワークショップを開いた特別支援学校の研修会とは、また違った雰囲気になっていました。

ワーク
in
天童
ジョ
シ

チヨォー気持ち良い

それでもやっぱり、みなさん回転



木馬のワークでは盛り上がりつつありました。

「こんなにみんなから褒めてもらったことがなかったので、チヨォー気持ち良かった。元気をもらって帰れます」「こんな風に話せる場所が欲しかった」というような感想もいただきました。

天童市育成会の事務局では、このような研修会は継続することで効果が出るのだからと、今後も開催していこうと考えているようです。今後、山形県手をつなぐ育成会でも、ファシリテーターの養成なども行い、県内で広くワークショップを開けるように考えています。

北村山地区育成会 レクリエーション 交流大会

12月12日、東根市で開催

メダルよりも輝く笑顔

北村山地区手をつなぐ育成会の平成二十二年度レクリエーション交流大会を、十二月十一日(土)に、東根市の「東紅苑」にて開催しました。当日は、育成会会員親子、管内の施設等に通所している方、地元ボランティア等五十名が参加しました。

フライングディスクを使い、ディスク重ねやディスクボーリングといった様々なゲームを各市町育成会毎チーム対抗で行い、珍プレー続出で笑いの絶えない大会になりました。

ゲーム終了後は、全員でおいしい昼食を食べながら懇談し、また、温泉に入った人もいてのんびりと楽しい一日を過ごしました。

ゲームで頑張ったご褒美に、参加者全員にお菓子のメダルが掛けられました。胸のメダルはお菓子なので輝きませんが、本物のメダル以上にみんなの笑顔が輝いていました。



第59回全日本手をつなぐ育成会

全国大会福島大会

郡山市で平成22年10月30日

～31日の二日間開催

県内育成会会員
250人が参加

第五十九回全日本手をつなぐ育成会全国大会福島大会が、郡山市で平成二十二年十月三十日～三十一日の二日間、開催されました。全国各地より、二千三百人の参加者があり、そのうち本人の参加が六百人を超えました。また、県内育成会から二百五十人も参加したのは、今だからつてなかつたことです。

本大会は、わが国の「障害者制度」が大きく改革されようとしているタイムリーな時期に開催されたものです。知的障がいのある人が「ふつうに暮らす」地域づくりに向けた取り組みを推進することを確認する意義ある大会になりました。

第一日目、六分科会で討論

第一日目（十月三十日）の分科会には、「育ち」「活動・働く」「企業で働く」「住まい・余暇」「暮らし・地



山形県勢による花笠踊り披露

山形県勢による花笠踊り披露。山形が誇る新米「つや姫」のロゴマーク付き。ここに山形ありと宣伝に努めてきました。来年度は、第五十一回手をつなぐ育成会東北ブロック大会・（併催）第二十三回山形県知的しょうがい者福祉大会を、山形市（山形国際ホテル、平成二十三年十月十五日～十六日）で開催することになっていたので、なおさら力が入りました。



「手をつなぐ母の歌」を全体会で合唱

い存分話し合いました。全国の人たちといろんな悩みを出し合いこれからも協力し合って取り組むことを約束することができました。

懇親会を盛り上げた山形勢

山形の参加者は、夜の懇親会でも大活躍。アトラクションとして花笠音頭を披露し大好評でした。守谷理事長自らはつぴを着用して花笠の輪に入り、他県の人たちも花笠踊りに加わってもらいました。最後に、花笠をみなさんにプレゼントし、多くの人から喜ばれました。この花笠には、

第二日目、全体会

第二日目（十月三十一日）の全体会において、田中俊久山形県手をつなぐ育成会副理事長が全日本育成会理事長表彰を受賞。さらに、山内久光新庄市手をつなぐ育成会会長が、東北ブロック会長表彰を受賞。多年にわたる地域における地道な育成会活動への貢献が認められました。

平成22年度知的障がい者相談員研修会を開催

「知的障がい者相談員の 地域特性に即した活動とは？」



講演を熱心に聴き入る相談員

平成二十二年十一月二十五日(木) 12時40分～15時、「平成二十二年度山形県知的障がい者相談員・支部会長合同研修会」を、山形県総合社会福祉センター四階大会議室(山形市小白川町)で開催しました。

参加者は、五十人ちようど。研修会に先だって、「地デジ説明会」を有友哲也氏(社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会事務局員・障がい者デジタル放送受信支援プロジェクト本部委員)よりしていただきました。

障害者がいるNHK受信料が全額免除の世帯には、簡易型チューナーが付与されるといふ貴重な情報を聴くことができました。平成二十三年七月二十四日にアナログ放送が終了するので、地デジ対応の必要性を再認識することができました。

相談員の役割

研修会は、菊本圭一氏(社会福祉法人ともいき会 障害者支援施設ハートポートセンターともいき 副施設長)・埼玉県川越市・特定非常利活動法人 埼玉県障害者相談支援専門員協会代表理事)の講演によるものでした。

演題「知的障がい者相談員の地域特性に即した活動とは？」共生社会をめざした障害者制度改革の推進をふまえて」について、実践に裏打ちされた経験豊富な話を聴くことができました。その中で、「知的障がい者相談員の役割」として、次の七点を指摘されました。

一、制度の谷間に陥っている人や自

分のニーズに気がつかず、生活上に課題や問題を抱えている人たちへ支援する人

二、自分が生活している地域の身近なところで継続的に相談に応じてくれる人

三、自立に向けた支援(個別)と共生社会の実現(地域づくり)に向けた活動をする人

四、弱くて保護が必要な人の初期相談にのり、社会サービスにつなげてゆく人

五、地域の相談支援専門員や自立支援協議会を活用して、チームで知的障がい者の問題に対応する人

六、地域の脆弱な制度やサービスを明らかにし、その課題解決に取り組む人

七、コミュニケーションに障がいのある人の「自己決定支援」をする人

相談員として、地域の「自立支援協議会」の活用、相談支援専門員との協力が今後の課題であることがわかりました。また、地域の社会資源を知り、それにつなぐ役割の重要性を認識したところです。

相談員は相談ケースを積み重ね、相談の質の向上に努めることの必要性を実感しました。それが、地域の共生社会づくりに貢献し、相談員としての役割も果たすこととなります。

知的障害児者・自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度

生活サポート総合補償制度

※お申し込み・お問い合わせは・・・

山形県知的障害児者
生活サポート協会
推進担当



AIU保険会社代理店(株)ジェイアイシー 仙台営業所

〒980-0804 仙台市青葉区大町1-2-1 ライオンビル4F

TEL: 022-265-0010 FAX: 022-264-0081

E-Mail: info@jicsendai.co.jp ホームページ: http://www.jicgroup.co.jp

平成22年度 一般社団法人山形県手をつなぐ育成会 主要行事等内容

事業名	開催地	期 日	備 考
一般社団法人山形県手をつなぐ育成会設立総会・記念総会・記念講演会・記念祝賀会	山形市	4/22(木)	山形国際ホテル
第9回山形県障がい者スポーツ大会	天童市	5/23(日)	県総合運動公園
第1回理事会	山形市	6/10(木)	県総合福祉センター
第1回支部会長・事務担当者研修会	東根市	6/17(木)～18(金)	東紅苑
第22回山形県知的しょうがい者福祉大会	新庄市	7/25(日)	新庄市民文化会館
平成22年度山形県知的障がい者レクリエーション大会	天童市	9/29(水)	県総合運動公園
第10回全国障害者スポーツ大会	千葉県	10/23(土)～25(月)	千葉市
第59回全日本手をつなぐ育成会全国大会	郡山市	10/30(土)～31(日)	ビックパレット福島、郡山市民文化センター
第2回理事会	山形市	11/11(木)	県総合福祉センター
知事へ表敬訪問	山形市	11/11(木)	県庁知事室
平成22年度山形県知的障がい者相談員・支部会長合同研修会	山形市	11/25(木)	県総合福祉センター
第3回理事会(臨時)	山形市	12/9(木)	県総合福祉センター
第4回理事会	山形市	3/10(木)	県総合福祉センター
第2回支部会長・事務担当者研修会	山形市	3/18(金)	県総合福祉センター
法人会報「手をつなぐ親たち」編集委員会(第32号9/30発行・第33号3/31発行)	山形市	8/17(火)、9/9(木)、2/10(木)、3/1(火)	県総合福祉センター
ブログ立ち上げ 山形県手をつなぐ育成会 http://blog.goo.ne.jp/y-kuseikai 10/7(木)より関連情報掲載、毎日更新			
家族支援・障害認識プロジェクトワークショップにファシリテーター派遣		12/17(金)＝新庄養護学校、12/22(木)＝村山特別支援学校樺岡校、2/22(火)＝天童市育成会、3/26(土)＝酒田育成会	
全日本手をつなぐ育成会評議員会(第127回)	東京都	5/27(木)	東京都
全日本手をつなぐ育成会事務局長会議	東京都	7/2(金)	東京都
家庭支援プロジェクト「ファシリテーター養成講座」	東京都	3/7(月)～8(火)	東京都
全日本手をつなぐ育成会行政説明会	東京都	平成23年3/23(水)	東京都
全日本手をつなぐ育成会評議員会(第128回)	東京都	平成23年3/24(木)	東京都

平成23年度 一般社団法人 山形県手をつなぐ育成会 主要行事等予定

事業名	開催地	期 日	備 考
第5回理事会	山形市	4/21(木)	県総合福祉センター
平成23年度一般社団法人山形県手をつなぐ育成会総会	山形市	5/19(木)午前	県総合福祉センター
平成23年度山形県知的障がい者相談員・支部会長合同研修会	山形市	5/19(木)午後	県総合福祉センター
第10回山形県障がい者スポーツ大会	天童市	5/21(土)	県総合運動公園
平成23年度第1回支部会長・事務担当者研修会	東根市	6/16(木)～6/17(金)	東紅苑
平成23年度山形県知的障がい者レクリエーション大会	天童市	9/7(水)	県総合運動公園
第51回手をつなぐ育成会東北ブロック大会(併催)第23回山形県知的しょうがい者福祉大会	山形市	10/15(土)～16(日)	山形国際ホテル
第10回全国障害者スポーツ大会	山口県	10/22(土)～10/24(月)	山口市
第60回全日本手をつなぐ育成会全国大会	東京都	11/5(土)～11/6(日)	東京国際フォーラム(有楽町)
第6回理事会	山形市	11/17(木)	県総合福祉センター
知事へ表敬訪問	山形市	日程調整	県庁知事室
第7回理事会	山形市	3/8(木)	県総合福祉センター
平成23年度第2回支部会長・事務担当者研修会	山形市	3/15(金)	県総合福祉センター
法人会報「手をつなぐ親たち」編集委員会(第34号9/30発行・第35号3/31発行)	山形市	8/2(火)、9/15(木)、2/2(木)、2/28(火)	県総合福祉センター
ホームページの立ち上げ 山形県手をつなぐ育成会沿革、参考資料、入会手続き等掲載予定			
家族支援・障害認識プロジェクトワークショップにファシリテーター派遣	県内4地区	5月、7月、12月、3月	村山・置賜・新庄最上・庄内の希望受けて
全日本手をつなぐ育成会評議員会(第129回)	東京都	5/25(水)	東京都
全日本手をつなぐ育成会事務局長会議	東京都	6/14(火)	東京都
全日本手をつなぐ育成会行政説明会	東京都	平成24年3月	東京都
全日本手をつなぐ育成会評議員会(第130回)	東京都	平成24年3月	東京都

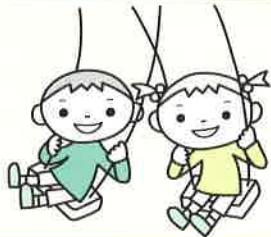
吉村美栄子知事へ表敬訪問 (平成22年11月11日)

11月11日(木)14時30分～14時50分、県育成会役員7人による、吉村美栄子山形県知事へ表敬訪問がありました。多忙な日程を調整し、時間を都合してもらいました。県庁障がい福祉課課長、課長補佐の案内で知事室に通されました。あいにく、守谷俊雄理事長は所用があり同行できず、田中俊久副理事長から主として、本育成会の現状について、知事にお伝えしてきました。

次のような話題を申し上げてきました。

- ① 今年度、本育成会が社会福祉法人から一般社団法人になったこと。
- ② あらためて草の根運動に力を注いでいること。
- ③ 会員の高齢化が進み、若い会員がふえないこと。
- ④ 日中一時預かりが突発的に必要になったとき、それに応ずるような施設がないこと。
- ⑤ 平成22年度知的しょうがい者レクリエーション大会(9/29)を山形県運動公園で開催し、参加者の安全確保のため、県庁職員の方々より応援いただいたこと。
- ⑥ しょうがい者が農業にかかわる助成への感謝。

以上、吉村知事も熱心に耳を傾けてくれ、時間もあっという間に過ぎました。



平成二十二年度は一般社団法人山形県手をつなぐ育成会設立初年度であり、円滑な運営を行うため、四回理事会を開催しました。第一回六月十日、第二回十一月十一日、第三回十二月九日、第四回三月十日に実施。その理事会では、①予算縮減に即した安定的な運営、②各市町村等支部活動の活性化、③会員増への取り組み、④研修機能の向上、⑤役立つ情報発信等の運営方針が確認されました。また、平成二十三年度で開催する、第五十一回手をつなぐ育成会東北ブロック大会・(併催)第二十三回山形県知的しょうがい者福祉大会(山形国際ホテル、10/15～16)の計画も立案中。計画にそった準備も少しずつスタートしています。

**平成二十二年度は
新法人として
四回理事会を開催**

編集 後記

平成22年度は、「山形県手をつなぐ育成会」が社会福祉法人から一般社団法人へ移行しました。県事務局では、各支部・個人まで確実に情報伝達ができるシステムをつくりたい。会報も一つの手段です。ただ迅速性に欠け、網羅的で内容が限られます。ネットで解決できないかと模索中。平成23年度以降、その課題解決に向けて取り組みます。 編集委員【中山一昭・鈴木一成・押野イツ子 事務局＝黒木仁・古澤薫・八鍬三郎】

【広告】 この広告は商品の概要をお伝えしています。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。

ぜんちの **あんしん保険**
少額短期健康総合保険(標準型)

4つの保障で大きな安心

医療保障

権利擁護費用補償

個人賠償責任補償

死亡保障

詳しい資料のご請求は
右記までお願いします。

病 気 ケ ガ

万が一の入院に、充実した保障で
大切なお子様をお守りします。

入院保険金
日 額

付添看護や差額ベッド利用の有無を問わず1泊2日以上入院を、初日から保障します。

10,000円
(B・Cプランの場合、1入院につき60日限度)

○募集代理店

宮城県代理店 (株)エフシーバンク

TEL 022-348-4481

〒981-3213 宮城県仙台市泉区南中山3-11-18

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号

岩本町シティプラザビル5階